たけし　　INDEX

（平和を願って）
戦争はいらない街を　（2014. 9）
平和って何？　（2014. 10）
私たち市民の運動をさらに、拡げましょう　（2015. 7）
（読んだ見た聞いた）
このごろ、小説を読んでいますか　（2019. 6）
（エッセイさまざま）
「コッカイオンドク」って何？　（2017. 7）
（会のあゆみ）
Ｃくんも参加の“カフェドけんぽう”　（2016. 10）
意見交換会「共謀罪について考える」　（2017. 5）
本当？憲法が変わるの？　（2018. 8）

（平和を願って）

戦争はいらない街を　（2014. 9）

たけし（竹の台）

30代の明石に住む青年が、神戸新聞の掲示板を見て、私たちの安保法制関連法案廃案にむけての、宣伝行動に駆け付けてくれました。200ほどのティッシュは瞬く間になくなり、チラシ配りやマイク宣伝、そしてあちこちで市民との戦争法案を巡っての対話が行われました。翌21日は兵庫県弁護士会主催の「戦争法案廃案」への「兵庫大集会・パレード」には9000人もの人たちが参加しました。乳母車をひいた家族ずれ、中学生とおじいさん、そして兵庫県下の9条の会、年金者組合、労働組合など平和を願い、戦争は嫌だ！の声が拡がりました。

安倍内閣が、安保法制関連法案を国会に提出して１か月以上がたちました。この間、この「法案」は憲法違反だ、廃案にせよ、今国会で成立するな等々、国民世論は大きく盛りあがってきていま

す。とりわけ、憲法学者3名の「法案」は違憲だと国会での発言以降、全国各地から廃案にむけての行動が起きています。国会を取り巻く数万人の行動は連日おこなわれ、若者たち－SEALDs（シールズ―自由と民主主義のための学生緊急行動）の行動は今までに見られない特筆すべき動きも起きています。また、地方紙の反対声明の広がりや、学者・文化人の動き、とりわけ、93歳の瀬戸内寂聴さんが、京都から新幹線に乗り、車椅子で国会前にきて“命がけ”で法案反対を訴えは、私たちを大きく励ましてくれました。

政府はこうした国民・市民の声に抗しきれず、国会を、戦後初めての95日延長を行い、また、自民党の若手議員による会合での言論弾圧発言や沖縄県民への侮辱などは、政権政党の焦りと不安ではないでしょうか。

西神ニュータウン9条の会は、今年で9年になりました。この間、ニュース発行、学習会を行い、昨年 7 月からは、「イチの日」行動を毎月行い、こつこつと市民の間に、9 条の大切さ、平和の尊さを伝えてきました。おそらく、全国の9条の会や、平和を願う人たちも私たち同様、地道に運動を続けてきました。こうした草の根の運動が、今の「戦争法案」廃案への運動へと大きく連動してきたと、私たちは誇りと自信をもってともいいのではないでしょうか。

とはいっても、安倍内閣は昨年暮れ、「この道しかない」と言ってアベノミクス解散を強行したように、どんな、“だまし”や秘策があるかもしれません。私たちは、今までと同様、いや、それにもまして全国の、そして西神の市民の人たちと繋ぎ合って、安保法制関連法案を廃案にしていきましょう。

平和って何？（2014. 10）

たけし　　（竹の台）

「平和な街に戦争はいらない」は私たち、西神ニュータウン9条の会の合言葉です。 では、平和ってどんな意味？どんな概念？平和な街をめざしてみんなで考えてみませんか。 平和って、戦争のない状態？でも、「戦争がなくても平和ではない」状態もあるのでは。

今、平和学を学んでいる人たちの間では、平和は「戦争のない状態」ではなく「暴力のない状態」と理解される傾向が広がっています。人はだれでも、自分の能力を豊かに開花させ、生き生きと生活

したいと願っています。それを奪ってしまうのが暴力です。夏休みに行った9条の会の「読み聞かせ会」に集まったたくさんのお母さんたちは「子どもの能力を開花させたい」と願ってよい本の読み聞かせ会に集まったと思うのです。しかし、一方で長田区の少女事件のように、尊い命が奪われ、子どもの豊かな可能性や未来を失ってしまう、許すことのできない暴力が存在しています。もちろん、生命を根こそぎ奪い、人間の能力を全面的に奪う、最大の暴力が戦争であることは間違いありません。

世界中で飢餓で苦しんでいる人は8億人余と言われています。福島では、原発事故により故郷・学校を奪われ、転校している子どもが1万人以上います。このような飢えや差別、貧困、環境破壊、教育や医療の遅れなど人間の能力が花開くことを阻む、社会構造の中にひそんでいる暴力がたくさんあります。

私たちは、戦争や核兵器や原発事故だけでなく、人間が心身ともすこやかに、自分の力を十分に発揮して生きることを妨げている様々な暴力の原因を探りだし、平和をつくる道筋を考えることが大切ではないでしょうか。

そして、世界や日本にあるいろいろな暴力を取り除き、平和をつくろうとする市民自身による取り組み（市民平和運動）が、今、かつてなく広がっています。そして、これらの運動で共通しているのは、だれそれの指示や命令ではなく、自分の頭で考え、行動していることの大切さです。私たち一人ひとりが「平和をつくる主体」になってきている、つまり、平和な街づくりは、西神ニュータウンに住む私たち一人ひとりだと思うのです

私たち市民の運動を　さらに、さらに拡げましょう（2015. 7）

たけし　　（竹の台）

30代の明石に住む青年が、神戸新聞の掲示板を見て、私たちの安保法制関連法案廃案にむけての、宣伝行動に駆け付けてくれました。200ほどのティッシュは瞬く間になくなり、チラシ配りやマイク宣伝、そしてあちこちで市民との戦争法案を巡っての対話が行われました。翌21日は兵庫県弁護士会主催の「戦争法案廃案」への「兵庫大集会・パレード」には9000人もの人たちが参加しました。乳母車をひいた家族ずれ、中学生とおじいさん、そして兵庫県下の9条の会、年金者組合、労働組合など平和を願い、戦争は嫌だ！の声が拡がりました。

安倍内閣が、安保法制関連法案を国会に提出して１か月以上がたちました。この間、この「法案」は憲法違反だ、廃案にせよ、今国会で成立するな等々、国民世論は大きく盛りあがってきています。とりわけ、憲法学者3名の「法案」は違憲だと国会での発言以降、全国各地から廃案にむけての行動が起きています。国会を取り巻く数万人の行動は連日おこなわれ、若者たち－SEALDs（シールズ―自由と民主主義のための学生緊急行動）の行動は今までに見られない特筆すべき動きも起きています。また、地方紙の反対声明の広がりや、学者・文化人の動き、とりわけ、93歳の瀬戸内寂聴さんが、京都から新幹線に乗り、車椅子で国会前にきて“命がけ”で法案反対を訴えは、私たちを大きく励ましてくれました。

政府はこうした国民・市民の声に抗しきれず、国会を、戦後初めての95日延長を行い、また、自民党の若手議員による会合での言論弾圧発言や沖縄県民への侮辱などは、政権政党の焦りと不安ではないでしょうか。

西神ニュータウン9条の会は、今年で9年になりました。この間、ニュース発行、学習会を行い、昨年７月からは、「イチの日」行動を毎月行い、こつこつと市民の間に、９条の大切さ、平和の尊さを伝えてきました。おそらく、全国の9条の会や、平和を願う人たちも私たち同様、地道に運動を続けてきました。こうした草の根の運動が、今の「戦争法案」廃案への運動へと大きく連動してきたと、私たちは誇りと自信をもってともいいのではないでしょうか。

とはいっても、安倍内閣は昨年暮れ、「この道しかない」と言ってアベノミクス解散を強行したように、どんな、“だまし”や秘策があるかもしれません。私たちは、今までと同様、いや、それにもまして全国の、そして西神の市民の人たちと繋ぎ合って、安保法制関連法案を廃案にしていきましょう。

（読んだ見た聞いた）

このごろ、小説を読んでいますか（2019. 6）

たけし　　（竹の台）

今年の新年早々、「さあ、文学で戦争を止めよう」という対談を読んだ。芥川賞作家の笙野頼子と直木賞作家島本理生の二人。若い作家で、残念ながら私は殆ど知らなかった。ただ、安倍首相が執拗に憲法9条に自衛隊を明記しようと繰り返し述べているこの時代の年始に、文学者が「戦争を止めよう」と声を出したことは私には大変意

味あることと感じていた。それは、文学者だけでなく文化・芸術に関わっている作家たちの今日の状況への声の上げ方が少なく感じていたからだ。

ときおりしも、「三度の海峡」以来愛読している帚木蓬生の「逃亡」（新潮文庫上・下）を読んだ。敗戦となり香港から身を隠して日本へ。妻や子どもたちとの一時的な生活にも別れを告げて、転々と日本を「戦犯」逃れに逃亡する。帚木の優れた筆力に魅せられながら緊張と感動の小説で、「特攻・戦犯」の目線から戦争を考えた。

そして、1972年生まれの沖縄を知らない作家真藤順丈の今年の直木賞の「宝島」（講談社）を読んだ。”戦果アギャー“として米軍基地に忍び込んで物資を盗み出す少年たちの成長を、52年から本土復帰の72年の沖縄の中で描いている。様々な凶暴な米軍の事件、その中での民衆の嘆きや希望を描いた壮大な叙事詩。まだ50歳にもならない作者が沖縄の歴史と民衆を描くことで戦後の日本と沖縄を私たちに迫ってくる。

つい最近、夏目漱石の第一人者と言われている9条の会事務局長小森陽一さん（東大大学院教授―西神NT9条の会の記念集会でも講演）が「戦争の時代と夏目漱石」と題して最終講義している。「門」「それから」「草枕」から具体例を引きながら、小森さんは「漱石は全ての小説で彼が経験した戦争と対峙している」と述べている。

文豪漱石から若い作家真藤さんまで、声高々に「戦争を止めよう」とは言ってないが、文学という表現を使って、歴史・戦争、平和そしてそこに生きる人々を通して今日の日本を考えさせてくれる。こうした文学との出会いが私たちに時代・歴史や社会を見つめる豊かな感性や理性を磨いてくれる。

それは、文学だけでなく、優れた音楽、映画、演劇、絵画等々との出会いに求めていきたいものです。

（エッセイさまざま）

「コッカイオンドク」って何？（2017. 7）
— ママたちとJR元町駅前でオンドクをする —

竹の台　　たけし

金沢の主婦が「共謀罪」法案の国会審議を音読しようと呼びかけた。野党議員と安倍首相、金田法務大臣の応答の言葉をそのまま丁寧に、大変な労力で掘り起し、それをオンドクしようというもので、瞬く間に 22 都道府県に広がり、44か所で行われた。場所は、路上、公民館、喫茶店、広場とそれぞれが集りやすい所で全く自主的に。神戸でも6月11日（日）に、JR元町駅東口前で行われた。西神の主婦がフェイスブックで声をかけると健康で安心して暮らしたいという普通のママたちが 9 人集まった。子供連れで姫路からの参加もあり、6～7人の子どもも加わった。男の声があってもいいのではと誘われて70歳過ぎの私も参加した。

コッカイオンドクのポスターや台本のコピー、首相や金田法務大臣、山尾、有田議員（民進党）や仁比議員（共産党）の首からかける看板も全てママたちの手作り。全くの素人ママがたち（中学生も）横に並んで先の議員たちのやりとりを順番に公衆の前でハンドマイクでオンドクしていく。人通りの多い元町駅では人々が集まり、配られた台本を読んでもらいながら聞いてもらった。読んでみると誰もが気づくことだが、金田法務大臣の答弁は、脈絡も知性もなく、行き当たりばったりの言葉で逃げようとしていて、国会はこんなことがまかり通っているのかと驚きと怒りが湧いてくる。それは読み人も聞く人も共感しあいながらの「共謀罪」法案への抗議の広がりであった。誰の指導も管理もない日曜日の2時間ほど立ちっぱなしのオンドクは大成功だった。姫路から来たママは地元でもやりたいと感想を語った。「ああ、こうしてママたちの行動は繋がり、広がっていくのか」と私は感動した。

6月15日に「共謀罪」法案は中間報告という異常な国会運営で強行採決した。怒りや無力感など様々な思いや声が渦巻いていた18日の日曜日に、ママたちは「コッカイオンドク・リターン」と呼びかけると、10数人が集まって元町駅でコッカイオンドクを再び行い、「共謀罪」法の廃案を呼びかけた。

安倍首相は、秋の臨時国会終了前に、自民党の憲法改正案を憲法審査会に提出すると述べた。憲法99条など全く無視しての独裁的で危険な言動である。

この10年、西神ニュータウン9条の会は“平和な街に戦争はいらない”と憲法9条を世界の宝と言って運動を続けてきた。私たちはママの会のように、普通の健康で安心して暮らしたいという西

神の住民の人たちと広く、深く手をつないで、9条改悪を許さない運動を粘り強く続けていかなければと、今思う。

（参考　　編集委員会）　　藤沢のコッカイオンドク（ユーチューブ）

（会のあゆみ）

Cくんも参加の“カフェドけんぽう”（2016. 10）

吉江仁子弁護士（明日の自由を守る弁護士の会―略称“あすわか”）には、2年前の「集団的自衛権」の学習会の時も来ていただき、盲導犬Cくんも一緒でした。

最初は、紙芝居による「王様を縛る法～憲法のはじまり～」で、立憲主義が大変わかりやすいお話でした。引き続き、「私たちは今どこにいるの」と、主に自民党の目指す「美しい日本」についてで、参加者のよる“指人形芝居”が行われ、疑似安倍首相や麻生副総理が登場して、会場は大笑い。

「『政治的中立性』ってなんだろう」は、今日のマスメデイアの状況が参加者からもリアルに語られ、お話は大いに盛り上がりました。

今回も新しい人の参加や西神南、学園都市からも含めて21名参加でした。質問コーナーでは、沖縄判決での今の司法への危機や、自粛するマスメデイアでのテレビと新聞の違いなど話がわきました。

終わって、1階の喫茶店で吉江弁護士と楽しい交流を行いました。

Cくんは？　先生のお話の間静かに寝ていました。いいお話聞いていないな！

たけし　（竹の台）

カフェ・ド・憲法　意見交換会「共謀罪について考える」（2017. 5）

桜が満開の4月15日（土）、恒例のカフエド憲法を行いました。総会等の準備や後始末に追われ、準備もできず、果たして何人の参加がと心配をしていました。コーヒーや茶菓子を準備し、一人二人と…最終は13人の参加があり、二人の報告から始まりました。

狩場台のKさんが4月1日の報道特集「共謀罪」のテレビ番組のキャスターや出演者たちのおしゃべりを文字に起こしての報告がありました。主な特徴的な発言を紹介します。

▽ナレーター：法務省が示した原案には、テロの文言が全くなく、野党から批判され…条文の修正にテロリズム集団の文言を加えた。

▽ナレーター：準備罪が成立すると捜査方法はどのように変わるのか…警察官僚の平沢勝栄氏（衆議院議員）に聞いた。

▽平沢勝栄氏：今回の法律がとおれば、捜査当局に権限が与えられて捜査当局の監視の目が強まると、市民に対する監視の目が強まることは間違いない。

私は、岩波書店の世界と週刊金曜日を読んでの報告をしました。これも主な点を報告します。

▽「テロ等準備罪」の名称をあげているがテロ対策の一部でしかない。当初は、対象法案は676あったが、5分野277に変えた（この中には文化財保護法や著作権法、消費税法も入っている）。

▽「共謀罪」は実際起きていない“犯罪“を二人以上で「話し合い、計画」し、「準備」行為しただけで罰せられます。ここでいう「計画」は「共謀」と同意語になります。

▽テロの処罰と捜査が広がる中で、人々は社会的活動を萎縮させることになります。その萎縮効果は、少数意見を持つ人々により強く表れ、活動の萎縮にとどまらず、多数意見への同調を促す力を生みます。自由な民主的社会は、少数意見を尊重し、少数意見に基づく社会的活動を最大限保障しなければなりません。

字数の都合上端折りますが、世界5月号に「共謀罪のある日常」が特集されています。

特集では、“大学のサークルでチラシを作成。雑誌に載っていたイラストを使うと計画しただけで共謀罪？（著作権法違反）”など日常のサークル活動や市民活動に萎縮が表れて　ることが掲載されています。（ぜひ読んでみてください、え？これも共謀罪？）

報告後の話し合いは、市民活動への影響や反対運動への広がりの課題など、楽しい熱心な意見交換の場になりました。

（たけし）

本当？憲法が変わるの？（6月16日例会報告）（2018. 8）

安倍内閣は、自衛隊を憲法9条に明記「しても憲法は変わらないと言っていること本当かな？

八木弁護士を招いてのお話に 23 人集まりました。パワーポイントで表などを使い丁寧にお話していただきました。

特徴的な内容を箇条書きします。

①現在は、自衛隊は、憲法より下の法律の中にあって、自衛隊をまがりなりにもコントロールできている。

②安倍内閣は、そのワク内でも、安保法制で自衛隊を南スーダンなどに派遣したが、自衛隊員が他国の戦闘員を殺害した場合の処理方針などに不都合が生じた。

≪9条の壁≫

③そこで、自衛隊を9条に明記して、「壁」を取り外して、憲法のワク内に組みいれようとしている。

④憲法のワク内で自衛隊と・人権条項（憲法 13 条－「個人の尊重・幸福追求権・公共の福祉」や 18 条―「奴隷的拘束及び苦役からの自由」など）が同じ重さになる。

となると、表現や言論の自由はどうなるの？徴兵制は？などと、憲法が変質してしまう危険性をわかりやすく話してくれました。

あと、若者へのかかわり方や、人々の中へ憲法の変質の内容を、どう伝えていくか、楽しく、和やかに話し合いました。　　（たけし）